

うるくの歴史と文化を語る会
会報 **ガジャンピラ**
第 11 号

発行：うるくの歴史と文化を語る会
発行人：當間一郎 編集人：赤嶺和雄
〒901-0153
那覇市田原4-1-1 JAおきなわ小禄支店内
TEL. (098) 857-1175 FAX. (098) 852-1486



大城 惟 宏
(前宇栄原郷友会会長)

宇栄原まーい (第6回うるくまーい)

うるくの歴史と文化を語る会が発足以来、旧小禄村の風土と環境、歴史と文化を語りながら、次の世代に継承していく目的で多くの活動がなされてきた。

その活動の一環として「うるくまーい」が行われています。今回の第6回では、「宇栄原まーい」が平成22年10月24日(日)に実施された。

宇栄原まーいには、語る会の会員や宇栄原地域の多くの方が参加した。

今回は、宇栄原地域の上ヌウタキ、下ヌウタキ、後ヌカー(梵字碑)、昔の綱引き場、根屋外間、目取真子、格子墓、アシビナー等、終戦直後、宇栄原地域で過した世代の会員には当時を懐かしみながら、また若い人達には宇栄原の歴史、文化を学ぶよい機会になったと喜ばれました。

今回は語る会代表の當間一郎氏、那覇市博物館学芸員の外間氏から専門家の立場で分かり易い説明もあり、有意義な催しとなった事に感謝申し上げます。

後ヌカーでは、ニービの石柱(砂岩)が8~10本建っており、宇栄原でも、いつ、誰が、何のために建立したのか、よく話題になっているところであり、梵字碑の説明と合わせ、興味が集中した。また宇栄原の先輩、赤嶺善市さんによると昔のカーサレー(井戸の共同清掃作業)の時に存在していた事が話された。

次に目取真子(舞踊の達人の墓)では改修工事も終り、整備された現場で當間一郎氏から宇栄原本組踊「雪弘」について、同氏が沖縄芸能史研究会で発表した資料に基づき説明がなされた。

宇栄原組踊に関する資料は戦争で紛失したものと思われていたが、S48年ブラジルに渡られた四男前桃原の赤嶺信吉さんが南米ブラジルから宇栄原に(赤嶺良英(前ヌ南桃原)さんと聞いている)送り届けられたもののようであり、資料による配役の名前には、今は亡き先輩の方々の名が記されており、懐かしさを感じた。大事にしたいものである。

今回まわる事が出来なかったが、参加者の中から戦前宇栄原と豊見城の境界に「火番」と呼ばれる地名があった(現宇栄原幼稚園隣接公園一帯)火番についての説明も希望されたが、時間の都合で今回はその所までまわれなかったもので、今後に期待したい。

現場には次のような記念碑が建っている。

※火番原(ヒバンムイ)

昔、海軍壕公園一帯は、烽火(のろし)をあげて進貢船や異国船の入港を首里王府に知らせる通信の拠点であった云々

今回の宇栄原まーいは地域の歴史と文化を直接肌で感じる貴重な体験ができました。

うるくまーい宇栄原編を企画実施していただいた歴史と文化を語る会の役員の皆さん、事務局長としてその実現に尽力していただいた赤嶺和雄さんにお礼を申し上げます。



①宇栄原下ヌ御嶽 5月ウマチー、地図574



②クシヌカーの梵字碑 地図661



③宇栄原まーい クシヌカー、地図574



④宇栄原まーい 目取真子で説明をする當間一郎氏

字宇栄原の聖地

赤嶺和雄（うるくの歴史と文化を語る会事務局長）

①宇栄原下又御嶽 地図365

御嶽とは聖地の総称である。御嶽と呼ばれている聖地を「琉球国由来記」（1713年編纂）に拠ってみると、村を守護する祖霊神・島立神・島守神と、ニライ・カナイ神、航海守護神などに関係する聖地に限定されているようである。宇栄原の御嶽の場合は、村を守護する神の御嶽で、このタイプの御嶽はどの村にも見られるものである。そのほとんどは血縁的古代マキョやハカ部落にみられる。宇栄原部落は御嶽を要として展開している。祖先の魂が御嶽の中、いわゆる丘の大地の中に潜み、神様は大地の中にしみこんでいると考えられた。

また神々が快適に過ごせるべく、木々には手をつけることが禁じられてきた。部落の人々はこの御嶽の祖先の人々の教えに従って、それを心の拠り所として暮らしてきた訳で、御嶽が荒廃することは、即人心の荒廃に直結するといっても過言ではない。

「琉球国由来記」に記載されている宇栄原の御嶽はトノモトノ嶽（神名：シマノ根ノ御イベ）現在の場所は旧自治会館跡、会館建設の為に現在の上又御嶽の場所に移された。下又御嶽の場所はもともと松川又殿の敷地跡。

各門中は初起し、5月ウマチー（稲穂祭、神に稲の初穂をそなえて豊作を祈願する）、6月ウマチー（稲の収穫祭で稲穂を神仏にささげて豊作を感謝する。）で集落・自治会や門中の繁栄を健康を祈願する



①-5 下又御嶽（1997年建替） 地図365



⑥下又御嶽（立替前） 地図366

⑦目取真子 地図03

和氏目取真筑登親雲上景正之墓、ニーピ（小禄砂岩）の丘に建っている。建立碑には昭和32年10月19日開設、宇栄原区民一同と明記されている。昭和30年ごろこの地（前又毛）の丘が整地されたときに、現在の位置になったのだろう。写真⑦の墓は2009年に改修されたものである。大里間切目取真村出身、舞踊の達人、宇栄原東村渠（アガリンダカイ）に組踊「雪払」、舞踊「四ツ竹」西村渠（イリンダカイ）に組踊り「久志の若按司」、舞踊「クシヌ万歳」を教えたと言われている。墓の座っている丘のニーピは小禄に多いため小禄砂岩と言われている。垂直に近い崖を造っても崩れにくい。ニーピ又骨（小禄砂岩団塊）はかつて貴重な石材で、首里城正殿の龍柱、民家では魔よけの石巖当に使われている。我が家でも玄関への階段に戦前から屋敷にあった物が使われている。ニーピの土手には自然の草花、チガヤ、ナンゴクネジバナが自生している。



⑦目取真子 地図03



⑦-8 目取真子 ニーピの丘に建つ 地図03

字字栄原本組踊「雪払」について

當 間 一 郎 (うるくの歴史と文化を語る会会長)

解 説

この組踊は、戦前のある時期-(昭和 4、5 年頃ときく)までは、旧小録村字字栄原の東あがり組の持ち組踊として、毎年、村踊りで上演されていたものである。現在の豊見城村字伊良波から糸満市への、海岸沿いの地名が出てくるので、その沿線が物語の展開する場面といえよう。

私は、昭和 52 年 6 月の沖縄藝能史研究会月例会で、「字字栄原本組踊『雪払』について」と題して報告したが、その祭には、字字栄原から糸満までの行程と思って、話をすすめたが、最近、台本を読みなおし整理してみると、登場人物の台詞に、主人公百十(ムムトゥ)は「伊良波大主の兄子シジャグワ」とあり、父の台詞では、「島尻の按司の臣下伊良波大役」とある。「大主」「大役」と異動はあるが、これは豊見城村字伊良波が物語の出発点であり、中心のようで、豊見城から糸満市へと広がる道のりを、巧みに描きながら、他の「雪払」と同じく、継子いじめの物語として展開させている。

現存する「雪払」は、この字字栄原原本を入れて三種類ある。一つは真境名由康氏が、昭和 33 年 4 月 4 日に沖縄タイムスホールで上演したもので、真境名氏が創作時点から 38 年前に、首里城内でみたものを思いおこして物語をまとめ、曲と歌詞を独自に入れて完成させた、いわゆる伊祖の子が、今帰仁へ風俗改めに行っている間に、後妻の乙樽が継子(前妻の子)を虐待して、大雪の中で失神させるという筋の話(後に相次いで数種の写本が出てきた)。

二つは組踊「巡見官」とよく似た話の「雪払」である。すなわち、『恩河本小録御殿本組踊集』に収録されているもので、謝国富勢頭富盛大主が供をつれて諸国巡見をし、各村々での善行者はほめたたえ、悪い行いのものは、きつく糺ただすという役目である。さしかかった村で、継母からいじめられている娘思鶴の話をきく。さっそく村人から思鶴の行いや働きぶりを聞いて、継親の虐待を知る。その親を呼び出して糺し、これまでの継子いじめを改めさせ、むつましく暮らすことを約束させるという話。

そして三つはこの字字栄原本で、父の伊良波大主(大役)が、島尻按司の仰せで長期出張している間に、継母が前妻との子百十ムムトゥをいじめて、雪の中で倒れているところを、父と供がつとめを終えて帰る途中で助けだす。継母の仕打ちであるにちがいないと見て、きびしく糺す。継母は百十と夫に今までの行いをわび、悔い改めることを約束する話である。

字字栄原「雪払」は、昭和 48 年 1 月 5 日に四男前桃原赤嶺信吉さん(当時 91 才)が、南米ブラジルから宇栄原へ送ったものである。現那覇市会議員で宇栄原出身の仲村善信氏が保存しておられる。トピラを見ると、最後の上演の際の配役と思われる各役が記されている。それは次のとおりである。

大主	新イリ桃原	赤 嶺 樽	福司十小	新田元	赤 嶺 三 郎
母	仲新門	仲村渠 加 那	大主ノ供	東り玉井	座 安 実
百十	南ヌイリ桃原ノ前	赤 嶺 嘉 新	(ひざーひ)		
亀十	前桃原ノ前	赤 嶺 義 一	大主ノ供	西新屋敷ノ前	大 城 現 裕
金松	前玉井	座 安 敬 一	(かむら)		
百才大主	四男前桃原	赤 嶺 信 吉	外数名		
" 長男	後桃原	赤 嶺 牛			
" 二男	上亀甲	上江田 清 助			
外五名程(百才大主の子供)			この配役は上演年が確定できないが、貴重な資料といえよう。		



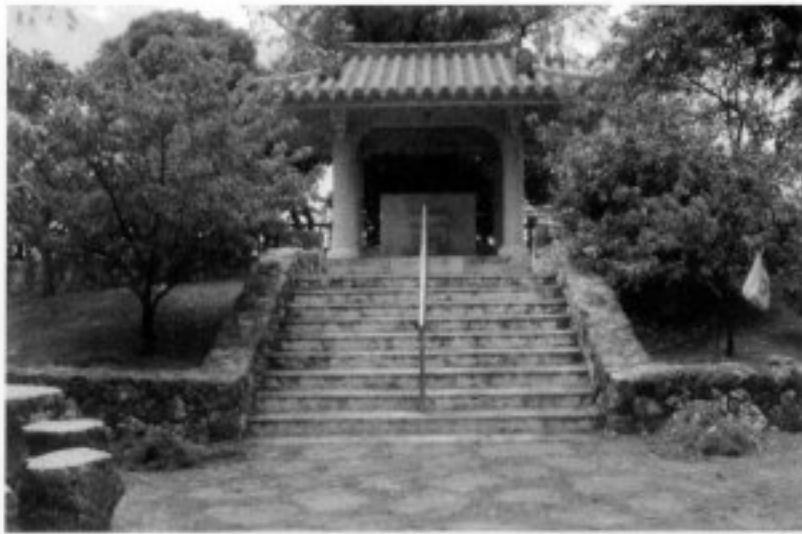
⑦-10 目取真子石碑文



⑦-11 目取真子石碑



⑦-12 宇栄原本組踊「雪払」の解説をする當間一郎氏



①-9 下又御嶽 地図 365



⑥-10 上又御嶽 地図 366



⑪ マチガグワカー 地図 571



⑫ ミージマカー 地図 572



⑬ アガリヌカー 地図 794



- 365 下又御嶽
- 366 上又御嶽
- 386 地頭火神
- 571 マチガグワカー
- 572 ミージマカー
- 573 アガリヌカー
- 574 クシヌカー
- 660・661 梵字碑
- 794 アガリヌアシビナー
- 795 イリヌアシビナー
- 796 綱引き場
- 797 松川馬場
- 856 ナカミチ
- 01 根屋、外間
- 02 1673年以前の石碑
- 03 目取真子
- 04 ホカマシー
- 05 松川カー
- 06 津真田カー
- ① 宇栄原自治会館
- ② 小祿中学校
- ③ 高前原公園
- ④ 小祿南公民館
- ⑤ さつき橋



那覇市歴史地図 (那覇市教育委員会)



②-14 クシヌカー 地図 574



⑤アガリヌアシビナー 地図 794



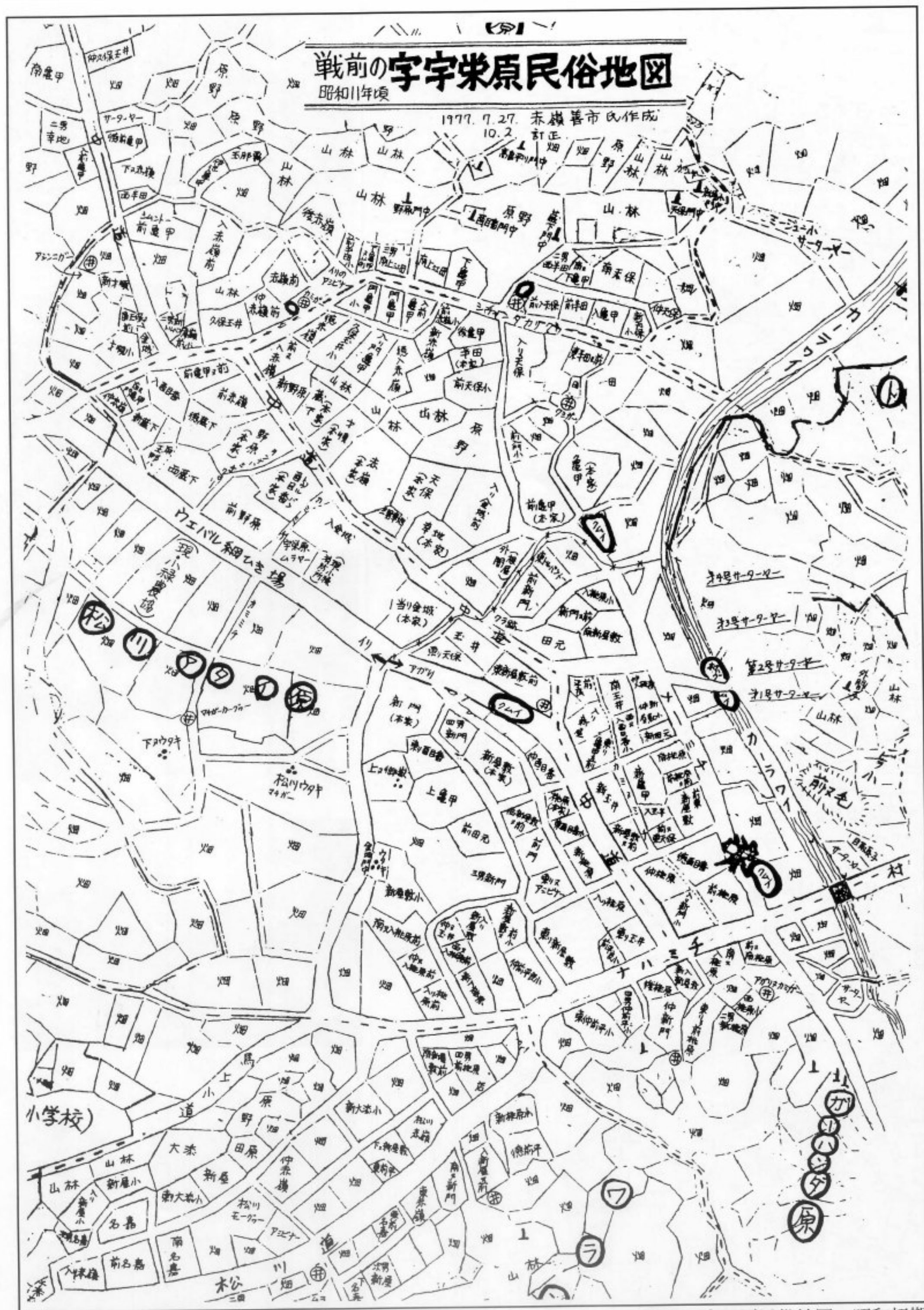
⑥イリヌアシビナー (ミージマ) 地図 795



⑦綱引き場 右側の平屋が旧自治会館 地図 796



⑧ナカミチ 多くの本家が面している 地図 856



戦前の字田原民俗地図 昭和初期

④クシヌカー 地図 574

水道がない頃、自分の屋敷の井戸水を生活用水に使用していた。夏になると井戸の水が涸れ、近くの親戚の井戸に水汲みに行かされた。そこが減少すると、イリヌアシビナカーに行き、最後のとりではクシヌカーであった、順番待ちで水汲みをした場所である。カーの後ろに梵字碑が二基建っている。一基の梵字碑はパンで金剛界大日如来を意味する記号である。もう一基は「光明真言葉」の梵字碑がある。これには三十字の梵字（古代インド語）が記されてある。

光明とは菩薩の心身にある光、真言とは真実の言葉、呪語をいう。この真言を唱えれば菩薩の光明を得て、一切の罪障を除くという。この二基のほかに、九個のニービヌフニ（小緑砂岩の団塊）が建っている。

⑥ー 10 上又御嶽 地図 366 「琉球国由来記」には上原の殿と記載されている。隣地の上江田清栄さんの話、小さい頃に「トヌニアチマリヨー」（殿に集まれ）と呼びかけしていたのを覚えていると話していた。

⑮アガリヌアシビナー 地図 794 東村渠（アガリンダカイ）のアシビナー、綱引きの時、東のミチスネーイ出発地、綱引き前に景気付けをする。空手演舞、巻棒、そうして旗頭が舞う、それに女達が踊るガーエー「シーヤァシー、シーシーシー」の掛け声は次第に高まり全員のカチャシーに広がる。

⑯イリヌアシビナー（ミージマ）地図 795 西村渠（イリンダカイ）のアシビナー、綱引きの時、西のミチスネーイ出発地、

⑰綱引き場 地図 796 旧自治会館前、消防署前バス停、戦前まではワラビチナ（子供綱）引きがここで行われた。

宇栄原大綱が途絶えたのが 1915 年頃、90 年ぶりに復活したのが 2003 年 7 月 27 日、写真はアシビナーを出発したミチスネーイ、先頭は袴姿の長老、その次に老人会、鉦子（ショウグ）、ドラ鉦、ホラ吹き、太鼓打ち、小旗、子供達、婦人会、とつづく、神道を通り綱引く場に入る。

⑱ナカミチ 地図 856 東西に走る中道に面してムトヤー（門中の本家）が多い。東から桃原、玉井、外間、幸地、天保、赤嶺、酉目番、才順、野原、倉下、久保玉井、金城各門中の本家。

②クシヌカー梵字碑 地図 574 梵字とは「広辞林」で、「古代インドの文字、セム系の文字の系統を引き梵語（サンスクリット）を書き表すのに用いられる」とある。この梵字がどのようなルートで沖縄に入ってきたかは分からない。多分本土からの僧侶によってもたらされたと思われる。

⑳ー 19 梵字碑 地図 660 パンと読み、金剛界大日如来の種子である。年代不詳、30.0 × 37.0 × 10.0 のニービヌ骨、完形完全。

⑳ー 20 梵字 地図 661 光明真言を表わす。61.5 × 34.0 × 16.0 のニービヌ骨、完形完全。大意：婦命・効験空しからざる遍照の大印、すなはち、大日如来の大光明の印よ、宝珠と蓮華と光明の大徳を有する智能よ、われ等をして菩提心に転化せしめよ。

⑳格子墓（赤嶺門中墓敷地内） 豊見城間切線瀬長城の姫が祀られてい。墓は瀬長城を向いている。

㉑豊見城間切宇栄原村の石碑（1672 年以前の碑） 地図 02 小禄間切が成立したのは、1672 年に豊見城間切から 8 カ村（大嶺、宇栄原、赤嶺、高良、具志、当間、安次嶺、罕宮城）が独立し、真和志間切から 3 カ村（小禄、金城、儀間）が独立して 11 カ村で小禄間切が成立した。

㉒フカマシー左側、ヌバルアジシー右側 地図 04 クシヌカー（村ガー）を造った方が祀られている。



㉑-19 クシヌカー梵字碑 地図 660



㉑-20 梵字碑 光明真言 地図 661



㉒津真田カー（下又御嶽南） 地図 06



㉒松川カー 地図 05



㉔火の神 (下ヌ御嶽内) 地図 365



㉕地頭火神 地図 386



㉖格子墓 (赤嶺門中墓敷地内)



㉗松川馬場 地図 797 突き当りが高良小学校



㉘根屋、外間 地図 01 赤瓦屋根が拝所



㉙豊見城間切宇栄原村の石碑 (1673年以前) 地図 02



㉚アガリヌアシピナカー 地図 794



㉛フカマシー左側、ヌバルアジシー右側 地図 04